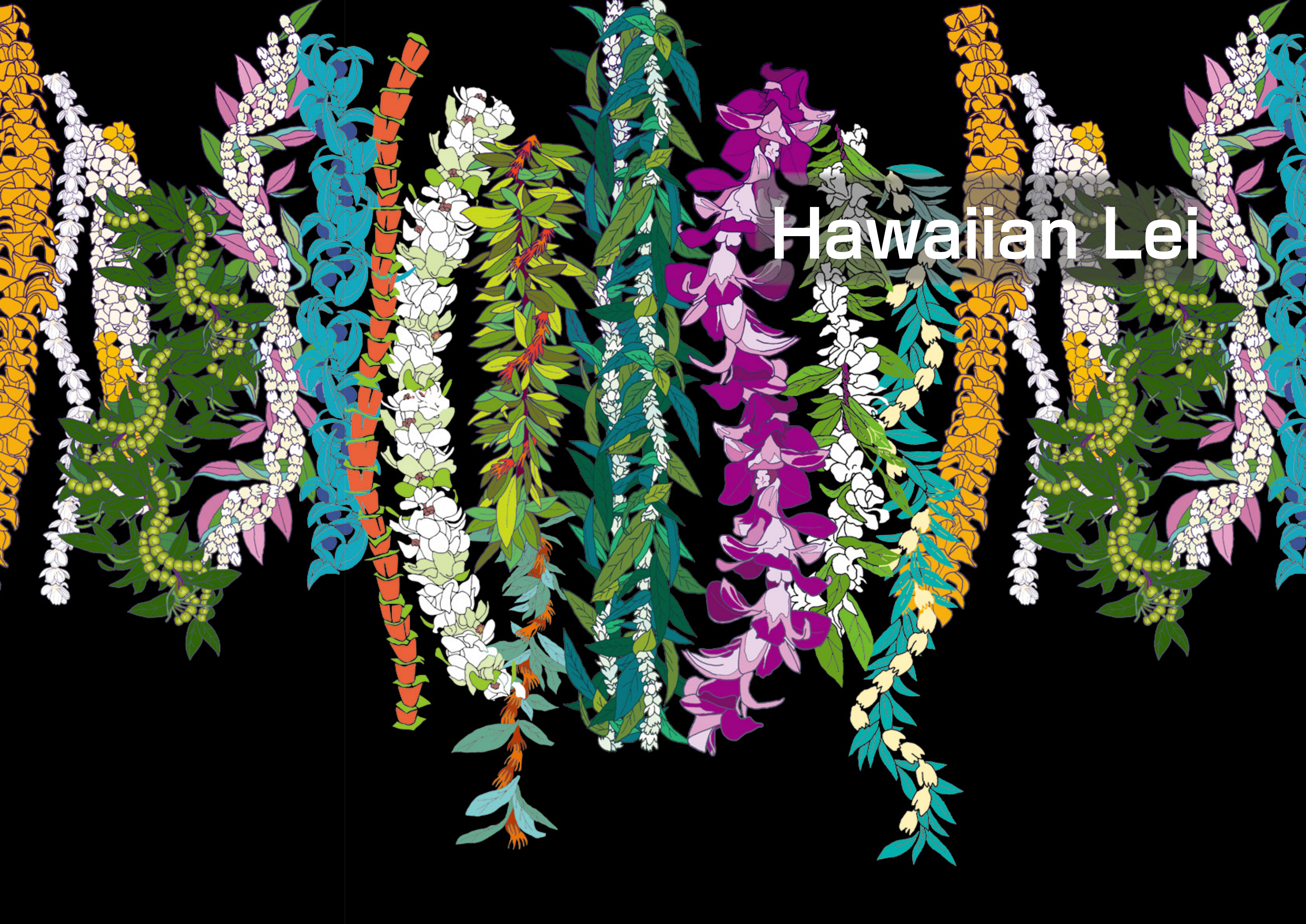


Hawaiian Lei



フラには欠かせないレイ。 最初は今思うほど華やかなものではありませんでした。 多くの人の手によって進化したレイは ダンスを彩るハワイの伝統文化のひとつです。

はじめに

フラダンサーにとって、最も身近なハワイアンカルチャーといえば、花や葉を使ったフレッシュレイなのではないでしょうか？新婚旅行のツアーなどで、はじめてハワイを訪れてもホノルル国際空港でハワイアンから贈られるレイを首にかけられ、ああハワイに来たんだな、という経験をしたという人も少なくないはず。今でこそ気楽に簡単にいけるようになったハワイですが、レイとハワイの関係について簡単にまとめます。



「Lei (レイ)」はハワイで生まれた言葉

「レイ (Lei)」という言葉は世界中で使われていますが、言葉自体はハワイで生まれたものです。古くはポリネシア人が島づたいにカヌーで星をたよりにタヒチからハワイに渡った 5 世紀ごろ、花のほかに木の実、サメの歯、人毛、葉、つる草などがモチーフとして使われていました。つる草のレイといえば、今もさかんに使

われているのがマイレです。キョウチクトウ科のつる植物であるマイレの茎にはバラのような香りがあり、古代は、レイを作る人の尊敬の感情を伝えるものとして、部族間の紛争を止める停戦の際に使われました。首長同士が共同でレイを編み、できあがったと同時に戦いを終わらせその瞬間に平和が確立する。ここからレイを贈り合うということは、互いの敬意と崇敬の印をあらわすものとして、今も受け継がれています。宗教的儀礼としても使われ、悪霊を避け、神に捧げ神に近づく徴（しるし）として首にかけていました。現代でもレイは、誕生日や、卒業、就職、結婚などの記念日や、歓迎、別れの時なども、相手への思いを花 1 つ 1 つに気持ちを込めながら繋げる花の首飾りで、ハワイの伝統文化のひとつとして今に至ります。



永久的なレイ

今は滅亡してしまったハワイの王族の間では、永久的なレイや、イリマやジンジャーのつぼみなどを美しく編み込んだ高価なレイで、身分や家系をパーティーの場で誇示するものへと変化します。最近ではフラには必須の装飾品となっているのは言うまでもありません。身分の高い人が身につけていた永久的なレイは、鳥の

羽を使ったレイで、1 羽から羽を 1 枚取って作られるので、何千何百羽もの鳥が必要で、儀式やパーティーの際に着用されていました。ハワイ原産の鳥オオ（ハワイミツスイ・絶滅）やマモの羽で作ったレイが特に高価なものでした。現在のフェザーレイは、アメリカの西部劇の影響で、キジの羽が用いられています。このほかの永久的な（半永久的）レイは、シェルレイで、色とりどりのカヘレラ二貝、純白のモミ貝、ライキ貝を編み込んだニイハウレイは、環境汚染のためその数が減ったことと、職人が減ったために大変高価で、その美しさから、日本でも大変人気があります。（10cm で数万円するものもあります。）フラでよく使われるククイの実を磨いて作ったレイも永久的なレイのひとつです。



フラで最初に使われたレイは？

フラで最初に使われたレイはハワイ原産の植物を使ったもので、マイレ、イエイエ、ハラ、パラパライ、イリマ、モキハナ、ヒナヒナ、オヘロでした。特にオヘロは火の神ペレにとっては神聖な実とされていて、食用の小さな赤い果実はキラウエア火山で栽培されたものだけを食べたといわれています。これ以外は、ハワイの神々を冒瀆するという理由から、他の花や葉は使ってはいけないという時代もありました。ですが、キャプテン・クックのハワイ発見後は、ハワイ以外の地域から様々な植物が持ち込まれ、プルメリア、ジンジャー、ピカケ、ガーデニア、バラ、カーネーション、ハイビスカスなどもレイの材料として使われるようになってきました。長く使えるレイは独自の美しさを持つ工芸品ですが、花や葉を使ったフレッシュレイは、美しい色や香りに大きな魅力があり、人々のイメージするフラワーレイの主役として今の時代、多くの人に愛されています。

8つの島のレイ

基本ハワイは 8 つの島で構成されていて、個人所有の島や、軍事施設のある場所を除いて、オアフ島、ハワイ島、マウイ島、カウアイ島、ラナイ島、モロカイ島の 6 島は訪ねることができます。このほかにも火山活動が激しいハワイ島の南島にキラウエア火山の活動によって「ロイヒ」と呼ばれる新しい島が誕生すると言われています。ニイハウ島は個人所有、カホラウェ島は、アメリカ軍の演習場となっているため、現在も立ち入り禁止となっています。それでも、各島の色とモチーフは決められています。レッスンの前にちゃんと覚えているかどうか毎回確認する教室もあります。これは 1923 年にハワイ政府が議会で各島を代表するレイとして議決され、

決まったものです。

ハワイ島：オヒア・レフア（島の色は、Red & Yellow）

モロカイ島：ククイ（島の色は、Dark Green & Light Green）

マウイ島：ロケラニ（島の色は、Dark Pink & Light Pink）

ラナイ島：カウナ・オア（島の色は、Orange & Yellow）

オアフ島：イリマ（島の色は、Gold & Yellow）

ニイハウ島：ププ（島の色は、Dark Blue & Light Blue）

カウアイ島：モキハナ（島の色は、Purple & Lilac）

毎年、5月1日はハワイではメイデーをレイ・デーと呼び、ワイキキ東部のカピオラニ公園で行われる「レイ・デー・セレブレーション」は大きなイベントのひとつです。このセレモニーは1927年、詩人のドン・グラディングの呼びかけで始まり、ハワイ各島でレイ・クイーンが選ばれ、彼らを乗せ花で飾られた車でパレードが行われます。レイ・メイキングはもちろん、そのほかに語学力、フラなどを競うコンテストで、レイ・クイーン、プリンセスが任命されます。



8島のモチーフ

レイの種類と作り方

レイ・メイキングの手法はたくさんありますが、フラを学んでいると体験できる機会があるかもしれません。また、コンペに参加する際には、今でもフレッシュレイで、花をつなぐ糸や紐まで全て天然素材を使って作ることが要求されるのが普通です。花をつなぐ糸や紐の材料としては、バナナ、ハウ、ラウハラ、ティなどが使われ、留め具として、ココナッツやニイハウが使われます。コンペの場で、花が落ちてしまったり、外れてしまったりすると減点対象になってしまうので、衣装以上に気を遣うこともあります。また、マイレやモキハナなど、植物自体が絶滅の危機に瀕しているものもあるため、入手が困難で高価なレイもあります。

①クイ・レイ：花や葉の中央や端を糸で通すだけの簡単なもので、スーパーマーケットなどで、10～20ドル程度で売られているのを見たことがあるという方も多いかもしれません。これらのレイに使われているのは普通の本綿糸です。

②レイ・ポエポエ：①の一種で花の弁に糸を通し、交互に並べ、花の重厚感を表現したレイです。

③ヒリ・レイ：1種類の常緑樹の葉または花を使い編んで作るレイ。だまざまな編み方があり、芸術的な美しさを表現するものです。

④ハク・レイ：現在では頭に載せる花冠のことを指します。二種類以上の葉と花を互いに編んで作り、昔からフラや結婚式などに使われていた華やかなレイです。

⑤ウィリ・レイ：基礎となる葉もしくは花を紐で巻いて作るレイ。

⑥フムパパ・レイ：フラダンサーが頭や首に飾るもので、ベースとなる植物の上に花や編んだモチーフを取り付けたもので、最近ではあまり使われなくなっているレイです。

ハク・レイ、ウィリ・レイは大変高価なもので、普段は造花で作られたもので代用されるのがスタンダードです。



フムパパ・レイ

アロハのレイ

ハワイは花の楽園のイメージが強いですが、1959年8月21日にアメリカの50番目州でありながら一番近いとなりの州まで3,600kmも離れている世界で最も孤立している大洋島のひとつです。なので、最初植物の種類は少なく、厳しい環境の中で種の淘汰により固有種だけが残るという環境にありました。2000年前に最初にハワイにたどりつたポリネシア人は26種類の食料、繊維、灯火用油脂植物、医療用植物を持って上陸したこといわれ、現在の楽園形成が始まりました。あまり華やかでない顕花植物275種とシダ135

種という地味な植物環境からスタートした場所だったのです。古典フラでシダがよしとされるのは、このような環境であったハワイの最初を考えると納得できるのではないのでしょうか？さらに1787年にキャプテンクックがハワイにたどりつたことから、爆発的な進化を遂げるハワイの植物環境ですが、現在はハワイ州政府により多くの植物が導入制限され、絶滅危惧種の保護に力を注いでいます。マイレのレイが入手しにくくなったのも、絶滅危惧種のひとつだからなのです。また、日本で人気のあるモンステラは、繁殖力が強く、一度根付くと周りの環境を壊して増え続けるので、場所によっては駆除される本当は嫌われものです。なので、ハワイでレイのモチーフとしては使われません。レイを贈るハワイアンのはじめは、友情の徴として言葉以上の澄んだ思いやりの心、愛を意味するやさしい思い、好意、親切、親善など言葉では表現できないほどの温かい気持ちを表しています。この言葉がよく言う「Aloha」の心なのだそうです。

オヒア・レフアのレイ